

わが心の山 富士を語る その7 新年の役得

正月の「飲食過多 + 運動量減少」により、少々体重が増加気味なので、少し体を動かし始めようと思って自転車または歩きの時間を作り始めた。

1月3日の夕暮れ時、緩やかな上り坂を上って国道16号線に向かって歩いていた時のこと。

上り坂を歩く背中から、沈み行く太陽がオレンジ色の光を感じて振り返って見た。街路樹も家並みも逆光の中で切り絵のように黒くなり始めていて、屋根と屋根の間に日が落ちる濃い色の場所があった。

少しずつ坂道の立ち位置を変えながらよりよく見える場所を探していたら、逆光の強い光で何も見えなかった視界に、三角形のような台形の薄い影が浮かびだしてきた。「もしかすると……」と思いながら、歩を止めて暫し焦点を絞って見続けた。日が落ちるにつれてその影は明瞭になっていき、数分と経たないうちに鮮やかな富士山が現れた。



静岡県富士市(旧吉原市)で小学校5年生までを過ごし、毎日富士山を見て暮らしてきたので、どこに暮らしても「ここから富士山は見えるかな?」という疑問が必ず頭をもたげてくる。

昭和30年代、千代田区五番町に住むことになった。こ

こで見つけた富士山は、江戸城外濠跡の四谷見附の石垣の上から、神宮外苑の樹木の上に見える。

次に住んだ町は新宿区笹塚町、牛込の高台の中腹にあたる所だったが、近所からは富士山は見えなかったが、少し歩けば見えるところはあったし、都電(路面電車)に乗って新宿まで行きデパートの屋上に行くと絶景を拝むことが出来た。

昭和39年に国立(北多摩郡国立町)に転居した。ここまでくると近所を散歩すれば富士山はいくらでも眺めることができた。国立駅から南西に走る一直線の道の向こうに見える富士山は絶品だった。おそらく富士山が見える方角を意識して作った道路なのだろうと思う「富士見通り」。

昭和46年に結婚して吉祥寺に居を構えた。駅から北へ 1.2Kmほどの住宅地のアパートの二階は、窓から富士山が見えた。

昭和48年に千葉市花見川区こてはし台に転居したが、この時には「家から富士を見る暮らし」は諦めたが、近隣の八千代台などの商業施設の屋上が富士見の場所になった。京成本線や総武線の車窓から富士山が見える場所を探し出すのが通勤時の楽しみのひとつになった。

自宅周辺からは富士山は見えなかったと思って46年暮らして来たが、遂に発見した。

その日はコンパクトカメラを首に提げての散歩だったので、1月5日あらためて一眼レフカメラを持って出向き、日没の経過を丹念に撮影してきた。

富士山を眺めたポイントは「こてはし台 2丁目11-3」<https://yahoo.jp/yfH1ZE>。

国土地理院の地形図で確認すると、海拔 24m。富士山が見えた方角は、概ね西南西。

富士山までの直線距離は 131Km、この線上にあるのは 籠坂峠・三国峠・相模大野駅・武蔵小杉駅・東京ディズニーランドなど。籠坂峠や三国峠と同じアングルで富士を眺めているのだと思うと、一流の仲間入りしたようで嬉しくなってくる。

九十九里浜北端の飯岡から富士山を眺めたことがある。思いがけない場所から富士が見えるというのは楽しいことのように「ここから富士山が見えたぞ」という情報は随所に存在するし、いくつもの書籍にもなっている。

福島県の 900mほどの山から見えるという情報もあり、和歌山県の 900mほどの峠から見たという情報もある。いずれの場所も直線距離にして 300Km以上離れており、見えることを発見した人の喜びは計り知れない。

以上

◆関係情報

<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/fuji05.pdf>

